

神戸山スキークラブ 岐阜・大日ヶ岳 山行記録

1. 日程 平成 31 月 (2019) 年 1 月 20 日 (日)

(小雪、弱風、湿雪でゴーグル・サングラスに付着し、時には凍り付き視界は不良。)

2. 参加者

藤田(正)、内田、成田、山本(周)、中村、ゲスト3名(全員、他会の山岳会に所属)

- ・ゲストNOさん(アルパインクライミング経験が豊富で、今回はテレマークスキーで5年ぶりのスキーを再開)
- ・ゲストKOさん(ゲレンデスキーは頻繁に、バックカントリーもガイドツアーで何度か経験)
- ・ゲストMAさん(山行経験は豊富で、ゲレンデスキーもする。今回、会員の山スキーセットを使い初めての山スキー初体験。)

3. 山行記録

前夜発で神戸を出発。ダイナランドスキー場の立体駐車場に到着(4時到着、5時30分まで仮眠)

6時~7時半まで、早朝ナイターゲレンデスキー。リフト3本分。雪質良好。

リフト2本を乗り継ぎ、ダイナランドスキーのトップまで。

ここからゲレンデの右端をシール装着で登行開始。途中から高鷲ゲレンデトップからのコースから西(左)側の尾根に入り、しばらくすると杉右下に高鷲ゲレンデゴンドラ到着駅の見ながら、尾根筋を若干のアップダウンを交えながら大日ヶ岳山頂に到着。



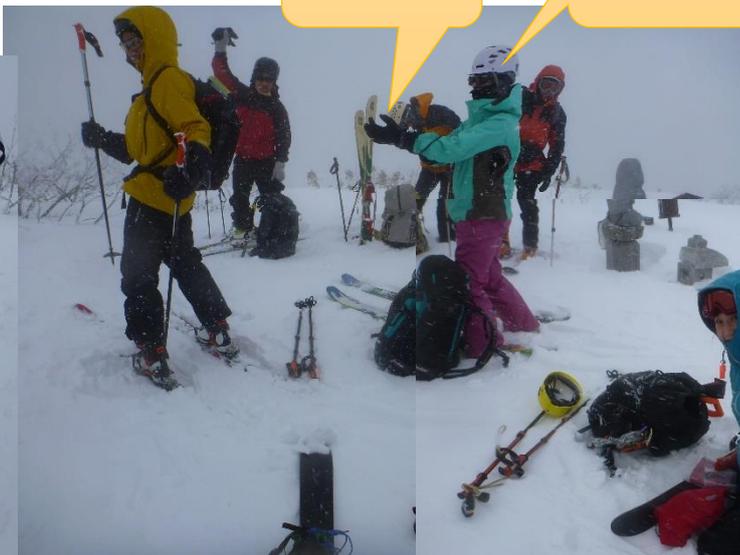
ゲレンデの左端を登る



ゲレンデから尾根筋に入る

大日ヶ岳山頂では、少し風があるため、休憩せずシールを外し、北面方向に滑降を開始した。積雪量はまだまだ十分でなく、ブッシュだらけで手間取る。山頂も積雪量が例年より少ないと思われる。

大日ヶ岳山頂での滑走準備



ゲスト
NOさん

ゲスト
KOさん

ゲスト
MAさん

山頂からの滑降。



尾根筋の視界の開けたところで集合して相談し、雪不足のため、当初予定していたカマス谷の滑降を断念した。しかし、少しだけカマス谷に向かって滑ることとしたが、ブッシュがうるさすぎるので、途中で滑降をやめ、食事休憩の後、尾根筋から山頂まで戻ることとした。





40 cmぐらい下に、弱い弱層が確認できた。



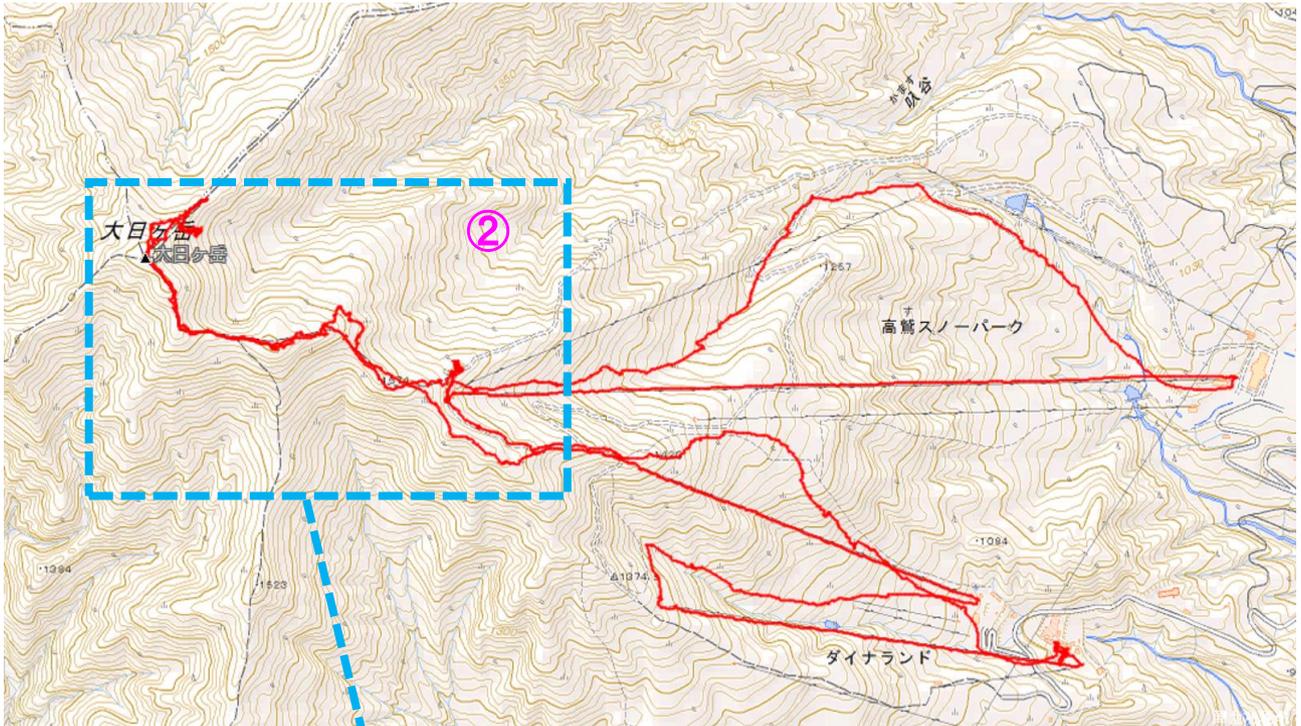
初心者にとっては、新雪急斜面のシール登行で、手間取りながらも、山頂まで登り直し。この際、シール外れなどのトラブルが多発するが、スクレーパー、ストラップバンドの活躍でクリアする。

コース上にシール登行が必要な部分が降ったため、山頂からは、シールを付けたままの下降になった。
なお、今回初山スキーのゲストMAさんについては、ビンディングが旧型のディアミールだったため、
後続する者が適宜、MAさんのヒール固定と解除を行い、ある程度安定したシール装着のままの滑降が
できている。



高鷲ゴンドラ山頂駅まで下り、山スキー行程は終了。レストハウスで休憩後、ゲレンデスキーとして
高鷲ゲレンデの麓まで一旦下り、ゴンドラで再度、高鷲山頂駅まで戻ったのち、車を駐車しているダイ
ナランドスキー場まで下り、16時にすべての行動を終了する。その後、入浴なしで、高速での渋滞もな
く帰神した。

GPSトレーストラック



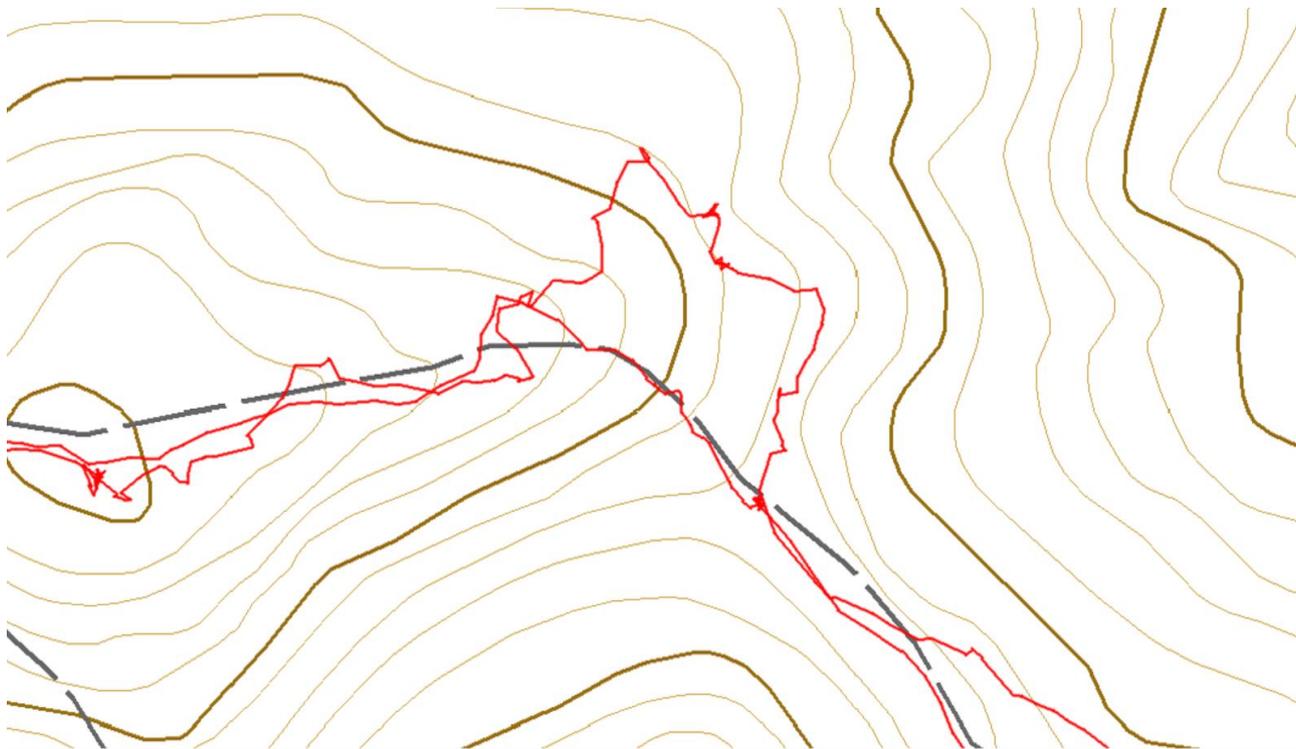
山行中の反省点

下山時に、2回、進行方向を誤る事例があった。視界が悪かったため、まず①頂上からピンク色矢印の方向に進もうとしたが、他のメンバーの指摘によりすぐに修正できた。

次に②の位置で、往路の登りのトレースが残っているにもかかわらず、先頭がピンク色矢印の方向に進み始めた。他のメンバーより方向が違うことを伝えるが、さらに別のメンバーが③の位置からの高鷲ゴンドラ山頂駅への下りと勘違いしていたためか、この方向で正しいと言い出し、若干の混乱が

生じた。結局、最後尾者が先頭者にGPSの画面を見せることでルート修正することが即座に決まったが、既に少し下っていたため、雪不足の斜面をトラバースし本来のルートに戻るのに時間を要した。

もし、ルート修正のタイミングが遅くなった場合、さらに下っていたため、シールの登り直しが必要となり、疲れている初級者には厳しい状況となったものと推定される。やはり、メンバー全員が山行前に地形図で地形と予定ルートを把握したうえで入山し、山行中も地形図上で現在位置を確認する行動を頻繁にすることは、時間の無駄ではないことを再確認したい。いつも大日ヶ岳という油断があったのではないか。



本来の尾根筋に戻るためにトラバースする私たちパーティ